武家名目抄稿 旗幟部三上 五

和書門
類 二五二の六
號 七七
函 一の
架 四五六
冊 中四九

内閣文庫
和書
類 二五二の六
號 四の六
冊 一の三
函 一三
架

内閣文庫
番號 和 25206
冊數 457 (370)
函號 153 275

国立公文書館
National Archives of Japan

武家名目抄稿第五冊

旗幟部三上目録

驗

符裏書

小印

合印

七印

赤印

国立公文書館
National Archives of Japan

白印

笠標

金襴ノ笠標

練貫ノ笠標

薄紅ノ笠標

水色ノ笠標 今无

赤鳥ノ笠標

大笠標 今无

金襴ノ大笠標 今无

濃紅ノ大笠標

中笠標

小笠標

国立公文書館
National Archives of Japan

武家名目抄稿第五冊

旗幟部三上

験

保元物語云ゑんみんゑやこをひかまくり弟
る時りうやうふかきの事ゑきたる
弟ゑんしさまよりうしとも思ひそうの
ひくきまよりもをかをとりうしろ
京中より見そうあのそうの作ふもの

[illegible]

平家物語ニ[illegible]の条ハ[illegible]

のきはのしやうそくあるうちのうき

おもひたるまゝ[illegible]すそこをおろひき

てくほうさうのあるかをとをこのうち

ほうもおもかの[illegible]とくふかさいるまきふの

矢ゆひをとうもおもゆらをうちとうこと

ひうさ一さほうふ[illegible]たまをそまい

なり多る[illegible]のちねんのこうしをそなへ

ム

太平記云摩耶合戦条赤松僅ニ五十餘騎ニテ

大勢ノ中ヘカケ入リ面ヲ不振戦ヒケル

カ大敵成ルニ叶ハ子ハ四十七騎ハ被討

テ父子六騎ニコソ成ニケレ六騎ノ兵皆

投シカナクリ捨テ大勢ノ中ヘ颯ト交

リカケマハリケル間敵是ヲ知ラテヤ有

ケレ云々

符裏書

叡井日記云赤井悪右衛門遣戸田式部部於甲斐武田四郎許条 式部

巨細ニ心得テ甲州ニオモムキ跡部ト云

又閑人ニ申入テ達シ候ヘハ勝頼大慶千

万ト満足ニテ一同致シ信長跡ヨリ攻メ

上リテハサミ討ヘキ手筈ニキハマリ候

勝頼モ直ニ兼リ殊ノ外ニ悦ヒテ田ノ馳

走浅カラス候水木執ノ三字ノ勝頼符ノ

隠書ニ致シ候テ戸田ニヒタヘテ候

小印

今川大双紙云小ヒ[illegible]ハ[illegible]ト通ル中

春[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

別所長治記云天正六年三月七日播州加

須屋カ館ヲ為本陣行列ノ次第尽善尽美

中略 秀吉手廻ノ兵具如先次蝶次小符次手
明歩卒
大友記云元就文司之城責係 戸次伯耆守ヲ大将ト
シテ的杵越中守齋藤兵部少輔吉弘右近
大夫田原等ニ被仰付都合一万五千ニテ
府内ヲ打立タリ豊前國立石原ニ陣ヲ取
小早河ハ主水正跡ニ入替リ文司ノ城ニ
イタリシカ是ヲ聞立石原オモテヘ來陣
シトル伯耆守小早川吉川人数ノ程軍ノ
色ヲ見ニ見テマイリ候ヘトテ物見ヲ遣
ス急キ行ムカヒ心ニ見テ帰リ申セハ敵
ノ人数ハ三万アマリト見申一備ノ様ニ
候ヘ共今手数ヲワクルト見ヘ旗ホシル
シ動揺シ備ノ内ヲ馬上馳マハリ候ト申
勝闘記云押来ル軍兵ノ一息ヤスム所ヲ
見知事小符持具足ウゴク共馬上ト小符

シハシカト可立若鳥多ク付カハ此息ヲ
ヤスメス揃ヲハヌシテ可戦必勝也一手
ニ押来テ手分シスルヲ見知ル事小符ヲ
ゴキ持具足可動是ヲ手分スルト心得
テ可致其行一備タル軍之勝負ヲ見知事
風モ不吹小符ウコキ取クミ合事アラハ
破軍ノ相也大軍又名大将ヲ不恐師ヲ入ヘ
シ

合印

明徳記云サレハ皆々明日此一族打死ヲ
シテコソ不義ノ合戦ニテハ侍レ共勇士
ノ志ハ是マテ也ト世ノ人ニモ沙汰セラ
レシスレ然ハ此一族皆々相シルシシシ
テ土屋黨ノ者共何十人討死シタリト人
ニモ知ラレ又恥ヲモ隠シテクルヽ僧時
衆モアラハ洩ヌ様ニ計ハヤト存ハ何カ

ト申ケレハ云ヽ

謙信家記云輝虎公越中発向ノ時扨其後味方討ナキヤウニ合印合言葉ヲ立付ワキ備ト進軍ハ見物スヘシ

十五

甲陽軍鑑云内大将其下侍大将是程大将近寄打破迄為ハ〳〵而中略あ〳〵ハ〳〵敵と多き事

播州佐用軍記云十二月十五日城攻ノ時城兵ニハ

騎馬ノ兵有歩行ノ兵共相印附タリ何レモ最期ノ軍ナリト思切互ニ励合テ撞入ケレハ討ルヽ者ヲハ乗越〳〵防戦事隙ナケレハ乗馬ノ兵モ馳倒大勢ノ中ニ捕籠ラレテ討レ元来小勢ナル城兵今ハ棟(むね)疎ニ成テ見ヘタリキ

七印

梅松論云元弘ノ初ノ頃家臣戦場ノ功ヲ賞シ秘説

有心[illegible]為軍頼義[illegible]と征伐の時自手を
碎く十二年の[illegible]暗衆[illegible]中[illegible]戦の[illegible]
[illegible]沈会のとき必[illegible]あるべ[illegible]
武明[illegible]為軍小[illegible]と云ふ
[illegible]を[illegible]皇の用小[illegible]
く[illegible]

赤印

日本書紀云 天武天皇紀 元年秋七月庚寅朔辛
卯天皇遣紀臣阿閉麻呂多臣品治三輪君
子首置始連菟率数万衆自伊勢大山越之
向倭且遣村國連男依書首根麻呂和珥部
臣君手膳香瓦臣安倍率数万衆自不破出
直入近江恐其衆与近江師難別以赤色著
衣上

平家物語云 一つのこゝろの色 いけのたゝなみ
[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

源平盛衰記云般若野追手ノ大将軍ニハ
軍除
三位中将維盛左馬督行盛薩摩守忠度中略
都合七万餘騎ハ加賀ト越中ノ境ナル倶
利伽羅山ヘヲ向ケル加賀国井家津播多
荒井閑野竹橋大庭寄田森木マテ連タリ
追手搦手十万餘騎赤旗赤ヒルヒル塩風ニ
吹レテ浦ミハ錦ヲ晒シ縁ノ梢ヲ隠ス山
ミハ紅ヲ染成リ

吾妻鏡云建久元年九月十八日己巳飯冨
源太宗季秀ヶ改宗長作献籠歴御覧之處重端華
逆也令問其由緒給宗秀季ヶ答申云是故実也
以赤革令重于表者頗相似平家赤旗赤標
也重于下之條可然歟云〻

太平記云武蔵国合戦条一方ノ大将ニハ新田武
蔵守義宗五万餘騎白旗中黒頭黒打輪ノ
旗ハ児玉黨坂東八平氏赤印一揆ヲ五手

ニ引分テ五所ニ陣ヲソ取タリケル

増補家忠日記云義弘爰ヲ去テ伊吹山ノ
辺ヲ過ル時川上左京亮同姓四郎兵衛押
川六郎兵衛久保七兵衛川上久右衛門ヲ
始メ宗徒ノ軍士等前後ヲ定テ引退ケテ
時赤印付タル武者六七十騎追掛ル事甚
急也殊ニ都将士卒ヨリ先ニ進テ是ヲ追
フ

白印

保元物語云 [illegible] 近者 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

平治物語云 結賀ら軍條

[illegible]

源平盛衰記云 横田河原軍條 木曾ハ謀ヲ構タル信濃源氏ニ井上九郎光基ト云者ヲ招テ加様ノ馳合ノ軍ハ勢ニ依ル事ナレハ御方ノ勢ハ少シイカニモ軍兵数盡ヌト覚エサレハ敵ヲ謀リ落サム為ニ御辺赤旗赤注付テ城太郎カ陣ニ向ヒ給ヘサテハ敵御方ニ勢付タリトテ荒手ノ武者ヲ指向テ軍セヨト云テ伏ミ居ヘシ其間ニ白旗白注シ取替テ蒐給ハム処ニ義仲河ヲ渡シテ北南ヨリ指シ夾テ蒐立ハナトカ追落サヽルヘキト云ヒケレハ可然トテ井上ノ九郎光基ハ星名黨ヲ相具シテ三

百餘騎赤旗俄ニ作出シ赤注ノ白注ノ上
ニ付隠レテ木曽カ陣ヲ引下リテレツ
ト筑摩川ヲ打渡シテ城ノ太郎カ陣ニ
向フ

又云源氏住田河原取陣像武蔵国豊島ノ上龍野河
松橋ト云所ニ陣ヲ取ル其勢ステニ十万
餘騎カヒリケレハ八ケ國ノ大名小名別
當庄司撿校允介ナレト云マテモ廿騎卅
五十騎百騎白旗白ヒルシ付ツヽコヽカ
シコヨリ参リ集ル

利官物張ヲ義経ハ朝ヨリ対面シ像

九郎由さうしハ長谷
乃すけ殿のちんのまへ三町ヲ引のきて
ちんとりさうしハ殿ハ

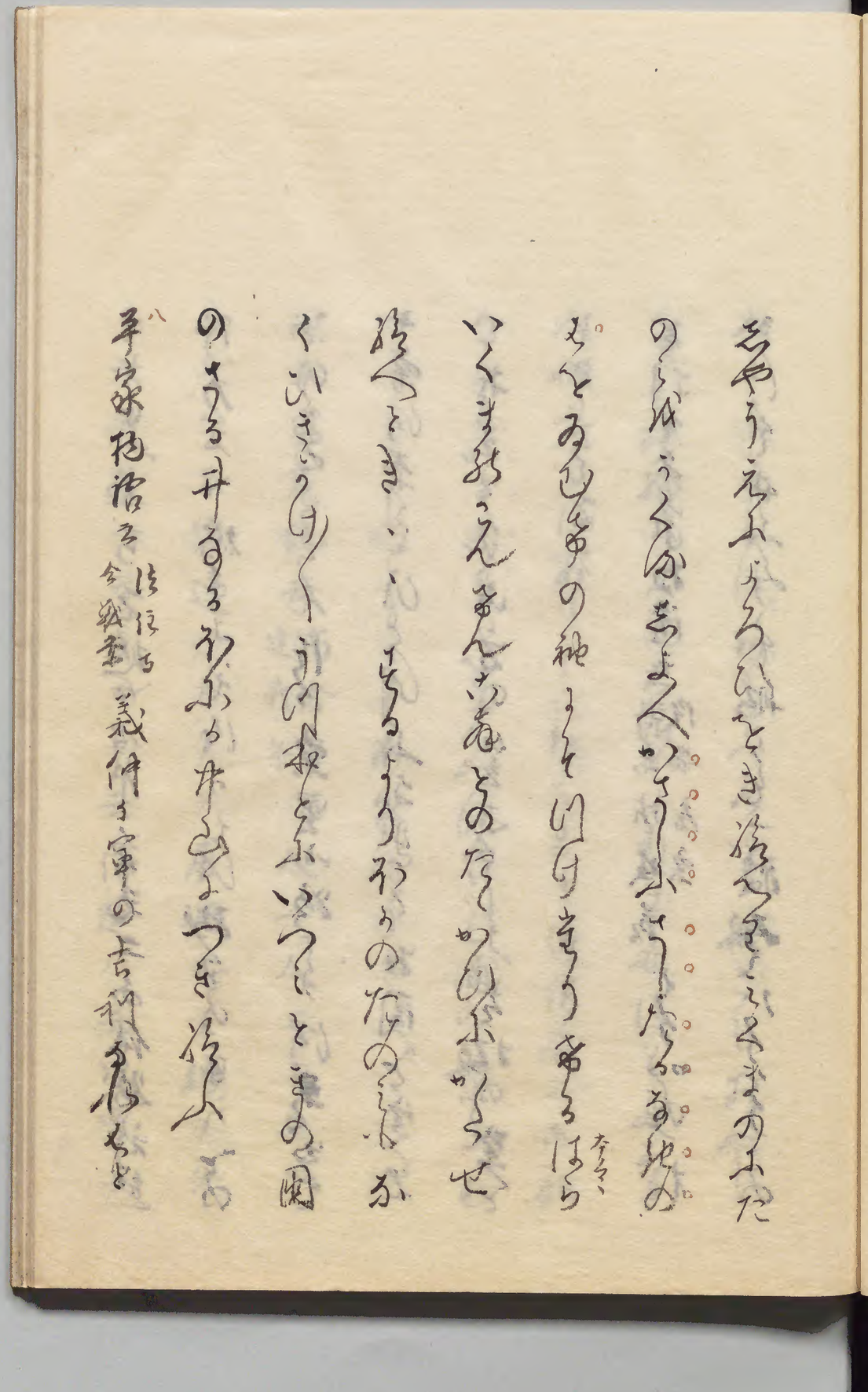
てれきあれし人てきゝてつふきてかひいさと
これりぬかひとのちらは二ちんありいうあると
人そろんしやうきうしやうとたゝよりてま
いまとくほりけ源意(?)とつりひあくとて
せぬへてこと
恵(?)蜜樹(?)云いそしく可出庄成造てたりて女房
ましく御幸有あの御方ちきる二条の関白
御幸成(?)御祝西光俊寛蒙ちくやうし

此源氏志りあると云ことの聞しきる大将を一
宗祢(?)號を志るし満仲の末孫に多田蔵人
と云しものを召して用意しけれへとて云
ろとをしの料にて宇治布三十段送たりける
ろと物を受取ても世の中あしく見せたりとか
きりに出家して栖(?)は梅宮(?)と云所に常には
おはしけるか折ふし人もなく行へからずとて
かへと云し

奥羽永慶軍記云檜原討條　夜盛亂カ　從茅ニ猪苗代留主助トラ十六歳ニ成ケルカ夜討ノ印ニ付タル白布ヲカナクリ捨大将ヲ討取レト敵ノ中ニ紛レ入ラ窺フ間ニ味方ハ早引取ス為方モナク敵ノ中ニ打囲レ檜原ニソ入ニケル

笠標

平治物語云自然野伏盛り返多有ありけるとも



平家物語云佐佐木盛綱義仲ト軍ノ吉行事

て七年にわたり通ひ路や　第二子修理亮
野乃方へ擲子に見ゆるのそ擲ちの手ハ古の
とのゝみそらん浦の名里小将より浦来出て
七条河原にひとりにあらまて松園と定めし
て新近くの此方の院志ましまに在松の葉を
を集ひしも当らる
長門本平家物語云　兵衛法眼信安房条　也あるのれ
き舟みをそ船こそ一般存てんかなて

なくて年ゝは浦まにあるに船こそあやし
年々此程乃大風吹荒てあまた浦々のあまき
人船あとはあらし浦のまゝに佐渡の浦風
なりとゆきあまりしとみつけて浦の船より
ゆくゑしらずとそいひしあまた年ハ
源平盛衰記云高倉宮信連戦条人一人モナカリ
ケレハ只信連バカリゾ居廻シテ縄ヲ付
テ六波羅ヘ参テレト云信連ハ云甲斐ナ

キ者共哉マタトヨ侍程ノ者ニ縄カケル
事ヤアル況ヤ靱負尉ニヲイテラヤ無下
ナル田舎撿非違使共カナ手カ實ニ知ベ
キ己等ニ物ヲシレヘレトテ云ケルハ我朝
ニ三種ノ神器ノ内ニ内侍所ト申御事ア
リ昔天照大神ノ御時百王ノ末ノ帝マテ
モ我御形ヲシヽヤセマイラセレトテウツレ
留ノ御坐ス御鏡ナリサテ絃袋ト云ハ又
後ノ内侍所ノ御皃ヲカタトレリ其故ニ
百官悉ク朝召シ仕ヘ奉ルト云ヘトモ衛
府官ハ浅位ナレハ地下ニシテ奉公ヲ致
ス直人ニマカフヘキニ依テ忝モ内侍所
ノ御皃ヲマ子ヒテ絃袋ヲ給テ左右ノ兵
衛尉赤皮左右ノ衛門尉藍皮是ヲ以テ侍
ノ品ヲ知国王ノ御宝ナレハ非分ノ難ヲ
通ヘキ笠注ナレ

又云 義経院参候 赤地錦ノ直垂ニ萠黄ノ唐綾ヲ畳テ坐紅ニ成タル書ヒ着テ鍬形ノ甲下人ニモタセテ後ニアリ金造ノ太刀帯タルハ鎌倉兵衛佐頼朝舎弟九郎義経生年廿五今度ノ大将軍ト名乗テ合テ曽ノ袖南無崇神八幡大菩薩ト書ケリ室ニ軍将ノ笠注ト見タリ

豫章記云對馬守カ嫡子河野七郎通遠生年十六歳ナリシカ父ヲ討セシト真中ニ駈塞テ大高トムスト組大高通遠ノ鎧ノ草摺無チト觚レテ中ニ提ケ申ケル様ハ是程ノ小者ト組テ勝負ヲスマシキトテ指除テ鎧ノ笠ヲ見ハ折敷ニ三文字也

吾妻鏡云文治五年七月八日丙寅下河辺庄司行平依仰調献御甲今日持参之開櫃

益置御前相副紺地錦御甲直垂上下御覧
之処胄後付笠標仰曰此簡付袖為尋常儀
欤如何者行平申云是曩祖秀郷朝臣佳例
也其上兵本意者先登也進先登之時所々
以名謁知其仁吾家自後見此簡可必知其
調進如此物之時用家様者故實也云 私于
時蒙御感
兼久軍物語云むかしへのまうしきはかくのさ
いしやうゝゝくまの清しあら清しとあ
ひとあれはひこんからせんたいをこのきこえしに
つくりたるをてらしめてとりたてゝ風にゆらへ
ありき
梅松論云建武三年二月二日尊氏卿宗像の浜
陣を取玉ふ所に御向ひ有ける六里斗浜過有けり
未明神社に香椎の宮前の杉を過て御祈念
あるに路人杉の枝を折持て進けるに敬て笠毎

於笠符にすくれは是ハ此方の太笠符か
しるしと成り南方将らり始まりて軍勢の笠
符すすきを付させ給ふ故南朝峰月の如く秘
めらし給ふ高祖新羅征伐の昔神功皇后祖
母の御為と祈られしに依て信し香りし季
志也人香椎にまつり給ひ也あり南社椎宮と
以仲哀に依し杉の葉をかさにと宮祝に降
衣忌たりし老翁直ちに将軍の御陣の神木の

笹を持せられしにより白き一刀をそへ給ふ故
又云敵の上野入道も此方の小山修理も共に一
族なりし故に互に名乗合て戦ひ討死す此方
の家人敵も此方も同家の紋なれは小山ちの
笠符をかへられし後に合戦すさるにより此方
すみかへしとて小山結城の笠符を竹の輪にて引
て用ひる事給ふ故
又云山の斎藤後の合戦にしくとて今日より

[illegible]

て夜の内より寄手の[illegible]師直と[illegible]

て[illegible]ゆく[illegible]一日より[illegible]

書戦[illegible]

廿一 太平記云筑紫合戦条 寂阿ニ於テハ英時カ城

ラマクラニノ可討死汝ハ急我館ヘ帰テ

城ヲ堅シ兵ヲ起ノ我カ生前ノ恨ヲ死後

ニ報セヨト云含ノ若黨五十餘騎ヲ引分

テ武重ニ相副肥後ノ国ヘノ返シケル故ノ

郷ニ留置シ妻子共ハ出シヲ終ノ別レト

思知ラテ故ルヲ今ヤト待ラノト哀ニ覚

ケレハ一首ノ歌ヲ袖ノ笠符ニ書テ故郷

ヘソ送リケル

故郷ニ今夜計ノ命トモシラテヤ人ノ

我ヲ待ラン

又云 主上自山門還幸ノ際 義貞朝臣豊嶋打出ノ合戦

ニ打勝テ則朝敵ヲ万里ノ波ニ漂セ同降
人ノ五刑ノ難ヲ宥テ京都ヘ帰給ノ事躰
ユヽシクヽ見ヘタリケル其時ノ降人一
万餘騎皆元ノ笠符ノ文ヲ書直メ著タリ
ケルカ墨ノ濃キ薄キ程見ヘテアラハニ
シルカリケルヤ其次ノ日五條ノ辻ニ高
札ノ立テ一首ノ歌ヲソ書タリケル
二筋ノ中ノ白ヽヲ塗隠シ新田ヽヽシ

ケナ笠符哉

太平記云（十六、廿二ウ）備中福山合戦條 大将ニハ宇弥左衛門
次郎重氏トテ和田カ親類ナリケリマサ
シキニ辻堂ノ庭ヘ馳来テ自害シタル敵
ノ首ヲトラレトテ是ヲ見ルニ袖ニ著タ
ル笠符皆下黒ノ文也重氏扱タル太カヲ
抱ヲアラ浅猿ヤ誰ヤラシ思タレハ兒嶋
和田今木ノ人々ニテ有ケルソヤ此人達

ト遍知ナラハ命ニ替テモ助クヘカリツ
ル物ヲト悲ミ泪流シ立タリケル
又云 敗負軍條 主上ノ恩賜ノ御衣ヲ切テ笠符
ニ付タル兵共所ヽヨリ馳集二千餘騎戦
ヒ疲タルヽヽ
廿九 又云 小清水合戦條 輪違ノ笠符着タル武者一騎
馬ヲ白砂ニ馳倒シテ敵七騎ニ被取籠タ
リ弾正左衛門義冬是ヲ見テ是ハ松田左

近将監ト覚ル目前ニテ討ルヽ御方ヲ不
助ト云事ヤアルヘキトテ六騎抜連テ懸
レハ七騎ノ敵引退テ松田ハ命ヲ助テ云
カ
又云 八幡合戦條 官軍七千餘騎カ中ヨリ夜討
ニ馴タル兵八百人ヲ勝リテ法性寺左兵
衛督ニ付ラル左兵衛督畫程タリ此勢ヲ
吾陣ヘ集テ笠符ツ一様ニ著サセ誰ツト

問ハ進ム卜名ノル ヘレト約束メ夜已ニ
二三更ノ程也ケレハ宿院ノ後ヲ廻テ如
法経塚ヘ押寄ハ百人ノ兵共同音
鯨鐘物強ク祇園林ハ焼ケ二度の怒
きんと成ぬ[illegible]
中略
[illegible]一万余騎
[illegible]中も彩海討ん[illegible]
[illegible]一揆の[illegible]四度

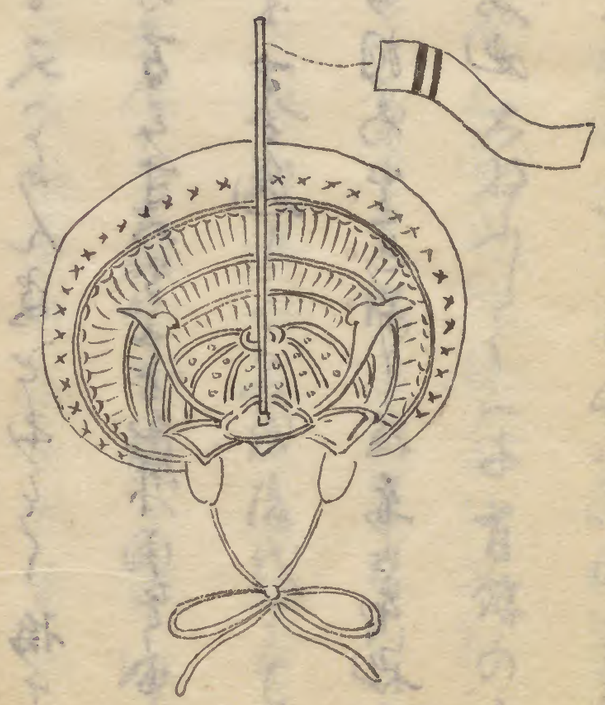
[illegible]
武将記云笠堡地ハ旗ニ同キ也主ノ意ヘ
家ノ先規ヲ可守雖然此道ノ深キ心ヲ、
可用也色ハ主ノ心ニ任ス長二尺八寸又
一尺八寸又ハ一尺二寸廣一尺八寸又、
尺二寸又ハ九寸至テセハクハ二寸八、
也此中ノ能ニ教合スヘシ
信長記云六條合戦条三好日向守岩成主税助

カ勢ハ左京大夫ニ打勝テ嵯峨ノ指テ追
テ行処ニ六條ニモ亦軍始タリト告来レ
ハ其軍ニアハレヨノ肝要ナレト云侭ニ
皆一同ニ六條指テ馳ケルカ未馳着ルニ
軍ハ早散シタリト覚テ味方ノ旗一ツモ
見ヘス笠符付タル者一人モナシ
播州佐用軍記云寄手城後大嶽夜討一揆引残糸此所ハ
谷底ヨリ十餘丈ノ嶽ナリケルニ今二丈
計ニテ兼得岩ノ狭間ニ各捕附於是進退
度ヲ失ル有様ナリ皆節ヲノ附タリケル
當国武士明石高砂曽根志方ノ者共ト覚
タリテ時高嶋大音声ニ呼張ケルハ其ニ
見タル人ニノ笠印見知タルヤウニ候ソ
ヤ云ヘ
續撰清正記云立花左近統宗任古城
柳川ノ城ヲ攻落シ給ヒ

田如水清正ニ為[illegible]ル[illegible]時ニ[illegible]
形和泉ニ[illegible]ト[illegible]ハ[illegible]一千有餘の人数
山伏の結構ニ[illegible]作り其軍勢の出[illegible]
ル肥前ニ一合戦ニ[illegible]代ニ[illegible]
ンとて男ふりをんて出加賀守[illegible]
[illegible]

軍陣聞書云其[illegible]の[illegible]
[illegible]

兵具雜記云[illegible]年[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]又[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]又[illegible]
[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]



神武天皇たるべきことを
知ることは上古の人
も信ずるところなれども知ることは
いまだ考へしことなしとぞ
いふべき考へしことは只天皇
ばかりの事なるべし
しかるに孝霊天皇の御宮か
ある事は一条殿の御覧ぜられ
あるべき一条殿の御覧ぜられ

或一のかさしとすり過分のもしてとはら
ことなの作とあるは作たまはも赤一寸ほとの編
なる事に鶴を小紙なるを笠にあくしていつ編
袖なると袖にかくしといひ御の前に立てつとい
其向の小旗なと名目のこと／＼しくまつ
まつりしを路近き世のなりとしなるを
又楼かさしとは村上遠昌依書首楼に
赤色をくくく衣の上に着する 日本書紀文武天皇紀

蓋その證鶴也秀郷が小筒を添へて然に付すに
る尚時是をと何とるいひ伝へ其名を今に
て負ひしに後證の袖に付たるこの善通の本
となりてそ元来を定らせ杉葉杉葉と付て
もすへてかさしとすしていひしとは云ふ
阿弥陀寺北野上の書に明らかなり于北の本
に秀郷久等物語にみえたる小旗に画くる鈴
羯羅制吒迦の形をさしくるかさしとすしと

いへり也又清輔袋草紙ニ索餅ヲ侍ホの御
貌ヲマナヒテ絃袋ヲ給テ左右ノ衛
尉赤皮ヲ表ノ衛門尉黄皮是ヲ以テ竹
ノ品ヲ知也王ノ御宝ナレハ非分の雑
ヲ通ルヘキ筈注ナレこ信連かいひたる
るも一条禅閤の花鳥記にも衣裳ハ写実、
其一のかきとりし也言句のそしりもなくとね
ゐたるとあやしとさちさたなりし

張掛にも附きたりしいくいかたなきことにもあらん
為にて文字の中に筈標の注之鑑筈とてなとさき
ましくに書たるは皆假字也猶又の字の泥
をも詮にて紙の筈をも以て神紙之
みしとかくこそあらんかしと其割とさへあらん
はそあらんかはそかくあらしとてかくに定見
きわしは皆近き世より始まりあらし伴
貞丈か武器考證にかきたるはかくれしたる

[illegible]

金襴ノ笠標

明徳記云一色左京大夫ノ装束ニハ赤地ノ段子ニテツヽミ山金同ニ白糸ノ鎧ノ妻取タルヲ二両重テ着給テ同七ノ五枚甲ニ五尺二寸ノ銀ノ鍬形打テ居頸ニ

着テ白地ノ金鎧ノ笠ニ山ヲ内野ノ風ニ吹キ靡ヒカセ云々

練貫ノ笠標

太平記云武蔵野合戦條ニ陣ニハ白旗一揆三万餘騎白葦毛白瓦毛白佐目鴾毛ナル馬ニ乗テ練貫ノ笠符ニ白旗ヲ差タリケルカ敵ニモ白旗有ト聞テ俄ニ短クソ切タリケル

薄紅ノ笠標

太平記云武蔵野合戦條三陣ニハ花一挿命鶴丸ヲ大将トシテ六千餘騎萌黄火威紫糸卯ノ花ノ妻取タル鎧薄紅ノ笠符シツケ梅花一枝折テ甲ノ真甲ニ差タレハ四方ノ嵐吹度ニ鎧ノ袖ヤ白ラレ

赤鳥ノ笠標

今川記云駿河国入部の初め富士浅間の神

[illegible]の時神女託して云遠江の[illegible]民[illegible]

[illegible]と得[illegible]

[illegible]今我[illegible]国の[illegible]

[illegible]心者伝[illegible]今川[illegible]

の赤鳥[illegible]

濃紅ノ大笠標

太平記云稲村崎成テ湾條相模入道嶋津ヲ呼寄テ自ラ酌ヲ取テ酒ヲ進ノ三度傾ケ心時

三間ノ馬屋ニ被立タリケル関東無雙ノ
名馬白浪ト云ケルニ白鞍置テソ被引ケ
ル見ル人是ヲ不浦山ト云事ナレ嶋津門
前ヨリ此馬ニヒタト打乗テ由丹濱ノ浦
風ニ濃紅ノ大笠符ヲ吹ソヲサセ三ツ物
四ツ物取着テアタリヲ拂テ馳向フ

中笠標

兵具雜記云中笠驗の事後二ものと

ものを結ぶ上にものを付
とふものをものとものを
風の前にものをさしあげ
のものを結ぶのものに
ものを結ぶ結者ものを付る笠
ものの家の紋あるもの

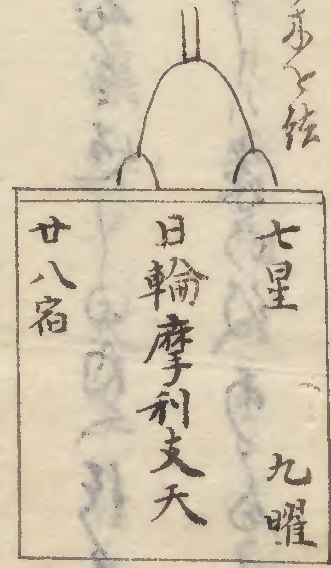
小笠標

兵具雜記云小笠驗ものをほうものを
のものをものをけつものを

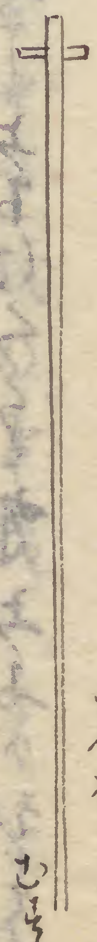
てあいかゝふくミえけるをむ事ゆへにまちあかい

こゝろ有へし

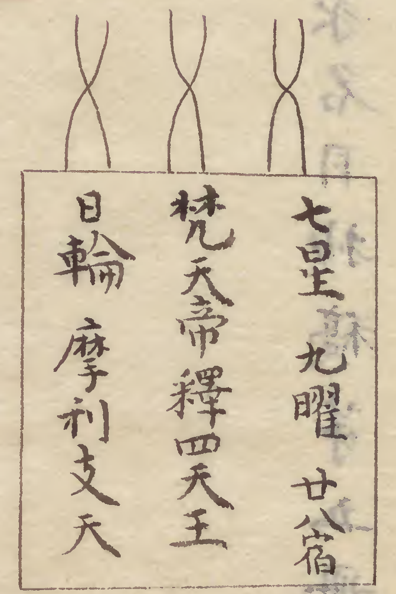
七寸ニ而て
勝虫と結



長一尺三寸よこハ九寸錦の時ハ錦
文金銀せいかうの時ハ黒字ヲ用也
勸請の下家の役者ハ小笠
験是也

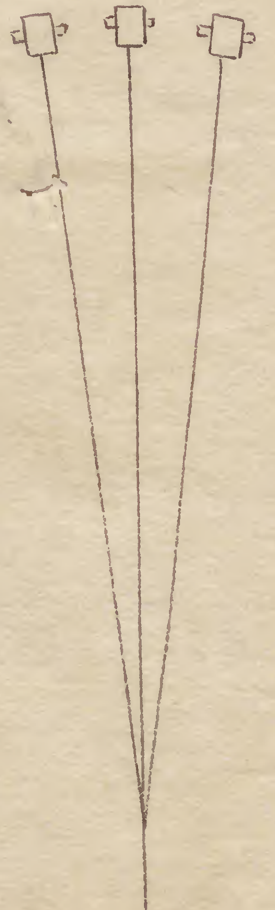


竿一尺七寸生の絲竹を削てこしらへ上ハ皮ヲ残し
元ハ削る
むすひなり



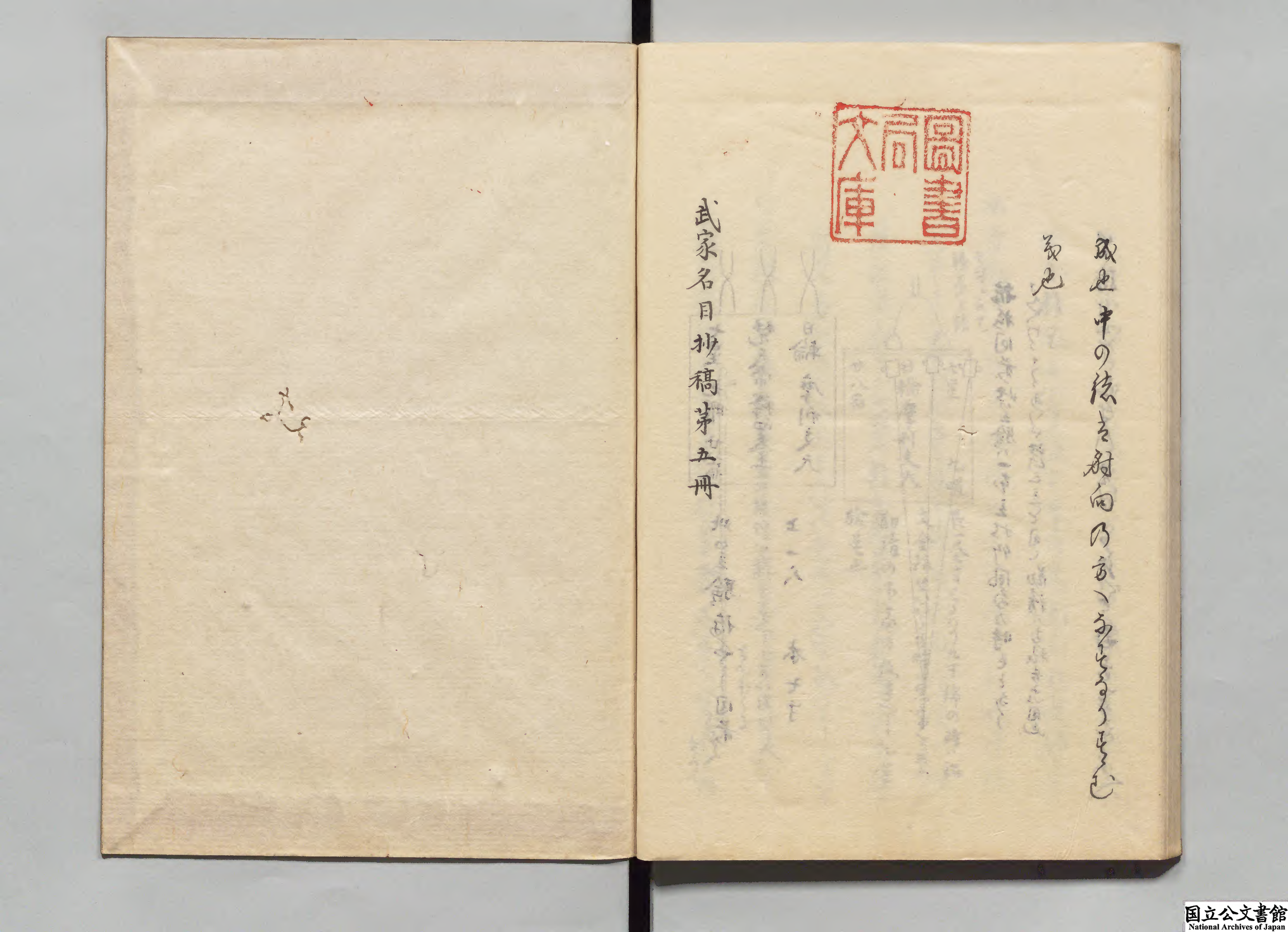
此笠験ハ旗やう同前

上一尺八　本七寸



指旗同前此笠験ハ一本立於竹風雨の時ハとるなり
このくわんさつあつる時ハ之を用之勸請ハ指旗并ニ小笠用也

笠験付ル也すハ先のさきにくゝと並ふ方とこゝろへし



国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫
国書

武家名目抄稿第五冊

国立公文書館
National Archives of Japan